

# 多義語の語義別習得順序に関する基礎調査

西内沙恵

北海道教育大学

nishiuuchi.sae@a.hokkyodai.ac.jp

## 概要

本発表では多義語の語義別習得順序の解明に向けて、既存の言語資源を援用した基礎的な調査について報告する。これまで語彙習得についてその過程や推定年次、音声・文法との関わりなど、様々な側面から研究が蓄積されてきた。一方で、多義語の語義が第一言語話者にどのように習得されるのかは明らかでない。基礎的な調査として、大規模コーパスと作文コーパスから多義語習得の推定を試みた。調査に基づき、国語科教育における多義語彙の説明提案及びASD児への学習支援を目的とした多義語の語義別習得順序の解明に必要な調査の展望を考察する。

## 1 はじめに

本研究の目的は、国語科教育への応用に向けた多義語知識の語義別形成順序の解明である。多義語は、単一の形式に関連する複数の意味が結び付いた語と定義される[1]。例えば、『学研国語大辞典』で「あまい」に(1)のような複数の語義が記述されている。

(1)の語義は天野・小林(2008)[2]による7段階評定(1:なじみがない~7:なじみがある)の語義別単語親密度が高い順に並べている。

- (1) a. 砂糖や蜜の持っている味である。(6.075)
- b. 教育や採点などが厳しくない。親切で、何でも受け入れる。(5.125)
- c. 深く考えない。考えが足りない。のんきである。(4.975)
- d. 匂いが糖分を思わせるようだ。(4.175)
- e. 心が溶けるようだ。楽しい。(4.050)
- f. 料理で塩気が少ない。(3.675)
- g. 男女間の愛情が細やかである。(3.425)
- h. ぴったり合わない。緩んでいる。(3.375)
- i. 大したものではない。(3.375)
- j. 人を喜ばせて誘い込むようだ。(3.125)
- k. 刃物の切れ味が悪い。鈍い。(2.550)

(見出し語ID番号:00025610)

「あまい」は中央教育基本語彙・阪本教育基本語彙・新阪本教育基本語彙・田中教育基本語彙によれば、小学校低学年語彙に位置付けられる[3]。語義別単語親密度においても「あまい」は6以上で評定される、親密度の高い語義を含むことから、児童生徒にもなじみのある語だと考えられる。一方で、語義によっては単語親密度が3程度と低く、児童生徒にとって未習得の語義が含まれている可能性がある。林(1971)[4]は現行の教育基本語彙には単一の形式でありながら発達段階によっては未習得の意味が含まれているという、多義語に関する教育的な課題を指摘している。日本語の多義語に関する教育的研究は、日本語教育や対照研究において多様な多義拡張の言語間差異を題材に、盛んに行われている[5][6]。国語科教育においても茂木(2013)[7]などで語彙の質的な学習支援を目的とする研究が行われている一方で、日本語第一言語話者の語彙習得に関する研究は今井・針生(2014)[8]などの幼児を対象とした調査が主である。第一言語話者であれば、日常的な言語経験を通して自然に多義語の知識が形成されると考えられ、教育的な課題として目立ちにくかったためと思われる。しかし、多義語は形式が既知のため、語義の理解が不十分であることに子どもも教師も気付きにくい可能性がある。本発表では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(以下、BCCWJ)の分類語彙表情報[9]、『子ども版日本語日常会話コーパス』[10](以下、CEJC-Child)、『小中高大生による日本語絵描写ストーリーライティングコーパス』[11](以下、JASWRIC)を援用し、語義別習得順序の基礎的な調査を行う。調査から多義語知識の形成を明らかにするために必要な調査実験の展望を考察する。

## 2 先行研究

意味的に単純な語ほど多義的である[12]という特徴や、使用頻度の高い語は関連する複数の意味を有する[13]という傾向から、多義語は日常的に高頻度で使われる基本語彙に多い。そのため、児童生徒に

もなじみのある語は多義的であることが多いと考えられる。しかし、既知の形式と未習得の語義の結び付きが問題なく理解・産出されるかは明らかにされていない。形式と意味の組み合わせが新規であれば、意味の確認につながりやすいが、多義語は形式が既知であるため、未習得の語義に対して既知の語義との関連性を文脈から推定することになる。多義語の語義の推定と習得に困難点はないだろうか。

Geeraerts (2010) [14]は多義語の語義間の関係付けを(2)のパターンとして概観している。

- (2) a. 一方の意味が他方の意味を特殊化または一般化したものとする関係付け  
 b. 一方の意味が他方の意味からメタファー的な拡張によって生じたとする関係付け  
 c. ある種の事物を指す語が経験の中で関係付けられる別の事物も指すようになったとする、メトニミーによる関係付け

(2b)メタファー及び(2c)メトニミー・シネクドキは指し示す対象の言語形式を直接用いずに表現する比喩的拡張である。比喩的拡張は語義拡張の主要な関係付けとして多義語分析の観点とされる。例えば、「あまい」は(1a)〈砂糖や蜜の味〉の快い状態との類似性から、味覚以外の感覚(1c)〈心が溶けるようだ〉にメタファー拡張が起きてしていると分析できる。比喩は文飾にとどまらない、人間の普遍的な認知能力として言語知識の基盤に関わっているとされる[15]。そのため、多義語の複数の語義も困難なく類推される場合が多いと考えられる。ただし、拡張元の字義通りではない語義があるという点で、理解が困難な児童生徒も存在すると考えられる。

### 3 調査

調査対象は語義別単語親密度[2]が5以上の語義を含む、動詞「きく」「つむ」「とく」「とぶ」、名詞「から」「こし」「やま」、形容詞「あまい」「うまい」「からい」「くさい」とした。

#### 3.1 BCCWJ

加藤・浅原・山崎(2019)[9]ではBCCWJコアデータ中の書籍サンプル、新聞サンプル、雑誌サンプルの自立語に対して、UniDic 語彙素番号との対応データ[16]に基づき、文脈に応じた分類語彙表番号[17]が人手により付与されている。中納言[18]によりBCCWJ[19]を語彙素・語彙素読み検索で用例抽出し、語義ごとに出現する媒体に偏りがいないか、分類語彙表番号を教科書と教科書以外で比較し確認する。

#### 3.3.1 動詞

動詞について表1と表2のような結果が得られた。

表1 レジスター別動詞の語義出現頻度

語	分類語彙表番号	教科書以外		教科書	
きく	用,活動,言語,問答,2.3132	1299	17.0%	13	38.2%
	用,活動,心,聞く・味わう,2.3093	6058	79.5%	21	61.8%
	用,関係,類,因果,2.1112	263	3.5%	0	0.0%
つむ	情報なし	0	0.0%	0	0.0%
	総計	7620	100%	34	100%
	用,関係,作用,乗り降り・浮き沈み,2.1541	1155	44.0%	6	50.0%
とく	用,関係,作用,増減・補充,2.1580	1468	55.9%	6	50.0%
	情報なし	1	0.0%	0	0.0%
	総計	2624	100%	12	100%
とぶ	用,活動,心,注意・認知・了解,2.3062	1627	81.3%	73	96.1%
	用,関係,作用,分割・分裂・分散,2.1552	360	18.0%	3	3.9%
	情報なし	15	0.7%	0	0.0%
とぶ	総計	2002	100%	76	100%
	用,関係,作用,走り・飛び・流れなど,2.1522	6672	95.9%	44	95.7%
	用,関係,作用,分割・分裂・分散,2.1552	276	4.0%	2	4.3%
とぶ	情報なし	11	0.2%	0	0.0%
	総計	6959	100%	46	100%

表2 教科書における動詞の語義出現頻度

語	分類語彙表番号	小	中	高	教科書	
きく	用,活動,言語,問答,2.3132	6	4	3	13	38.2%
	用,活動,心,聞く・味わう,2.3093	6	3	12	21	61.8%
	用,関係,類,因果,2.1112	0	0	0	0	0.0%
とく	総計	12	7	15	34	100%
	用,活動,心,注意・認知・了解,2.3062	5	53	15	73	96.1%
	用,関係,作用,分割・分裂・分散,2.1552	0	0	3	3	3.9%
とぶ	総計	5	53	18	76	100%
	用,関係,作用,走り・飛び・流れなど,2.1522	12	10	22	44	95.7%
	用,関係,作用,分割・分裂・分散,2.1552	1	1	0	2	4.3%
つむ	総計	13	11	22	46	100%
	用,関係,作用,乗り降り・浮き沈み,2.1541	2	0	4	6	50.0%
	用,関係,作用,増減・補充,2.1580	4	0	2	6	50.0%
つむ	総計	6	0	6	12	100%

教科書全体では教科書以外と分類語彙表番号の分布に大きな違いがないが、校種別に見ると、小学校より中学高校で出現頻度が増える語義があることが見て取れる。

<sup>i</sup> 語源に基づき「聞く」と「利く」を調べている。

### 3.3.2 名詞

名詞について表3と表4のような結果が得られた。

表3 レジスター別名詞の語義出現頻度

語	分類語彙表番号	教科書以外		教科書	
から	体,関係,存在,存在,1.1200	437	29.1%	1	1.3%
	体,自然,身体,骨・歯・爪・角・甲,1.5606	932	62.1%	73	97.3%
	体,自然,天地,宇宙・空,1.5200	130	8.7%	1	1.3%
	情報なし	1	0.1%	0	0.0%
総計	1500	100%	75	100%	
こし	体,自然,自然,材質,1.5060	82	1.1%	0	0.0%
	体,自然,身体,胸・背・腹,1.5602	7200	98.8%	10	100%
	情報なし	9	0.1%	0	0.0%
	総計	7291	100%	10	100%
やま	体,関係,形,玉・凹凸・うず・しわなど,1.1820	85	0.4%	0	0.0%
	体,関係,時間,途中・盛り,1.1652	16	0.1%	0	0.0%
	体,自然,天地,山野,1.5240	17654	85.1%	212	89.8%
	体,主体,人物,固有人名,1.2390	2984	14.4%	24	10.2%
	情報なし	0	0.0%	0	0.0%
	総計	20739	100%	236	100%

表4 教科書における名詞の語義出現頻度

語	分類語彙表番号	小	中	高	教科書	
から	体,関係,存在,存在,1.1200	0	0	1	1	1.3%
	体,自然,身体,骨・歯・爪・角・甲,1.5606	2	4	67	73	97.3%
	体,自然,天地,宇宙・空,1.5200	0	0	1	1	1.3%
	総計	2	4	69	75	100%
こし	体,自然,自然,材質,1.5060	0	0	0	0	0.0%
	体,自然,身体,胸・背・腹,1.5602	3	2	5	10	100%
	総計	3	2	5	10	100%
やま	体,関係,形,玉・凹凸・うず・しわなど,1.1820	0	0	0	0	0.0%
	体,関係,時間,途中・盛り,1.1652	0	0	0	0	0.0%
	体,自然,天地,山野,1.5240	63	41	108	212	89.8%
	体,主体,人物,固有人名,1.2390	11	5	8	24	10.2%
	総計	74	46	116	236	100%

名詞では教科書と教科書以外とで分類語彙表番号

ii 語源に基づき「殻」に加えて「空」の語彙素読み「カラ」も調べている。

の分布に違いが認められる。

### 3.3.3 形容詞

形容詞では表5と表6のような結果が得られた。

表5 レジスター別形容詞の語義出現頻度

語	分類語彙表番号	教科書以外		教科書	
あまい	相,活動,心,感動・興奮,3.3002	250	5.0%	0	0.0%
	相,活動,心,詳細・正確・不思議,3.3068	173	3.4%	2	33.3%
	相,関係,様相,難易・安危,3.1346	393	7.8%	0	0.0%
	相,自然,自然,味,3.5050	4233	83.8%	4	66.7%
情報なし	0	0.0%	0	0.0%	
総計	5049	100%	6	100%	
うまい	相,活動,行為,才能,3.3421	2425	15.9%	3	5.9%
	相,関係,様相,良不良・適不適,3.1332	9906	65.1%	46	90.2%
	相,自然,自然,味,3.5050	2874	18.9%	2	3.9%
	情報なし	0	0.0%	0	0.0%
総計	15205	100%	51	100%	
からい	相,活動,心,苦悩・悲哀,3.3014	65	26.3%	1	33.3%
	相,活動,待遇,待遇・礼など,3.3680	63	25.5%	1	33.3%
	相,関係,様相,難易・安危,3.1346	32	13.0%	1	33.3%
	相,自然,自然,味,3.5050	87	35.2%	0	0.0%
情報なし	0	0.0%	0	0.0%	
総計	247	100%	3	100%	
くさい	相,活動,心,詳細・正確・不思議,3.3068	178	5.1%	0	0.0%
	相,関係,様相,趣・調子,3.1302	2056	59.4%	0	0.0%
	相,関係,類,異同・類似,3.1130	1218	35.2%	2	100%
	相,自然,自然,におい,3.5040	7	0.2%	0	0.0%
情報なし	0	0.0%	0	0.0%	
総計	3459	100%	2	100%	

表6 教科書における形容詞の語義出現頻度

語	分類語彙表番号	小	中	高	教科書	
あまい	相,活動,心,感動・興奮,3.3002	0	0	0	0	0.0%
	相,活動,心,詳細・正確・不思議,3.3068	2	0	0	2	33.3%
	相,関係,様相,難易・安危,3.1346	0	0	0	0	0.0%
	相,自然,自然,味,3.5050	0	1	3	4	66.7%
総計	2	1	3	6	100%	
うまい	相,活動,行為,才能,3.3421	0	2	1	3	5.9%
	相,関係,様相,良不良・適不適,3.1332	13	6	27	46	90.2%
	相,自然,自然,味,3.5050	0	0	2	2	3.9%
総計	13	8	30	51	100%	

か ら い	相,活動,心,苦悩・悲哀,3.3014	1	0	0	1	33.3%
	相,活動,待遇,待遇・礼など,3.3680	1	0	0	1	33.3%
	相,関係,様相,難易・安危,3.1346	1	0	0	1	33.3%
	相,自然,自然,味,3.5050	0	0	0	0	0.0%
	総計	3	0	0	3	100%
く さ い	相,活動,心,詳細・正確・不思議,3.3068	0	0	0	0	0.0%
	相,関係,様相,趣・調子,3.1302	0	0	0	0	0.0%
	相,関係,類,異同・類似,3.1130	0	0	2	2	100%
	相,自然,自然,において,3.5040	0	0	0	0	0.0%
	総計	0	0	2	2	100%

教科書全体では「うまい」の相,関係,様相,良不良・適不適,3.1332 以外で出現件数が少なく,教科書以外と分類語彙表番号の分布の比較がしにくい。校種別に見ると,動詞・名詞と比べて,「あまい」相,活動,心,詳細・正確・不思議,3.3068 と「からい」のように小学校のみで使用が確認される場合があった。

### 3.2 JASWRIC 及び CEJC-Child

JASWRIC[11]は2種類の連続イラストを用いた日本の小中高大学生による作文コーパスである。作文では,鍵がなく自宅に入れない「鍵」とサンドイッチを作り出かける「ピクニック」,それぞれのストーリーが描写される。データから,小学生262名による作文524件で調査対象語が運用されているかを確認した。タスクの性質上,題材と関係がないために使用されにくい語彙があると考えられるが,産出状況を参照するために援用した。

動詞では人物が会話する様子を「きく」で,犬がバスケットから出てきたイラストを「とぶ」で描写する作文が確認された。「とく」と「つむ」はいずれの校種でも使用されていない。名詞では,ピクニックの行き先を「やま」と描写する産出が確認された。「から」は使用されていなかったが,バスケットの中身を「からっぽ」と描写する作文が見られた。「こし」は驚いている人物の描写として「腰が抜ける」といった使用が中高校生の作文で確認された。形容詞では食べ物とイラストの展開について「うまい」が多義的に産出されていた。「あまい」は大学生が「あまっちょろい」を産出したほかは見られない。「からい」「くさい」はいずれの校種でも使用されていなかった。

CEJC-Child[10]を中納言で語彙素検索したところ,「とく」以外の語で子どもによる産出が確認された。

## 4 考察

コーパス調査を通して,調査対象語の小学校教科書における実例や,作文・会話での産出が確認された。一方で,実例の件数が少なく,学年次ごとにどのような表現のインプットを受ける可能性があるのか,十分に確認できなかった。教科書に加えて絵本や児童文学,知識読み物などを調べることで,多義語知識を形成する環境について分析を進めたい。また,小学生の協力を得て理解と産出を調べることで,多義語知識の形成過程が明らかにできると考えられる。

今後,調査資料を拡充し,調査実験を実施することで,発達段階に応じた多義語の質的な学習支援のタイミングと題材の提案を行いたい。

## 5 おわりに

多義語は自然な習得が可能だと考えられるが,習得過程が明らかになることで,よりよい学習支援につながると思われる。調査を通して小学生時点で使用される基礎的な語彙であっても,出現頻度が少なく未習得の可能性のある語義の存在が示唆された。国語科教育における語彙の質的な学習支援により多義語の正確な知識形成の促進が期待される。さらに,字義通りではない解釈に困難が生じる場合のあるASD児の学習支援に役立てられる可能性も視野に,調査実験を拡充していきたい。

## 謝辞

本研究は博報堂教育財団「第20回児童教育実践についての研究助成」を受け、行っているものです。

## 参考文献

- [1] 国広哲弥, 意味論の方法, 大修館書店, 1982.
- [2] 天野成昭・小林哲生(編), 基本語データベース語義別単語親密度【I/あ〜さ】, 学習研究社, 2008.
- [3] 国立国語研究所, 教育基本語彙の基本的研究—増補改訂版—, 明治書院, 2009.
- [4] 林四郎, 語彙調査と基本語彙, 電子計算機による国語研究, 3: 1-35. 1971.
- [5] 大神智春, 日本語学習者による多義語コロケーションの習得, ひつじ書房, 2021.
- [6] 鷺見幸美, 中国語を母語とする日本語学習者による多義動詞の使用, 言語文化論集, 36(2): 81-96, 2015.
- [7] 茂木俊伸, 小学校国語教科書における「つまずきことば」の分析, 鳴門教育大学研究紀要, 28: 343-355, 2013.
- [8] 今井むつみ・針生悦子, 言葉をおぼえるしくみ, ちくま学芸文庫, 2014
- [9] 加藤祥・浅原正幸・山崎誠, 分類語彙表番号を付与した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の書籍・新聞・雑誌データ, 日本語の研究, 15(2):134-141, 2019.
- [10] 小磯花絵・石本祐一・居關友里子・江口典子・柏野和佳子・川端良子・田中真理子・田中弥生・西川賢哉, 『子ども版日本語日常会話コーパス』モニター版の構築, 言語処理学会第31回年次大会発表論文集, 3525-3528.
- [11] 石川慎一郎・友永達也・大西遼平・岡本利昭・勝部尚樹・川嶋久予・岸本達也・村中礼子, 『小中高大生による日本語絵描写ストーリーライティングコーパス』(JASWRIC)の構築:L1/L2日本語研究の新しい資料として, 言語資源ワークショップ発表論文集, 7: 393-416, 2023.
- [12] Johnson-Laird, P. N. & Quinn, J. G. To define true meaning. *Nature*, 264: 635-636, 1976.
- [13] Langacker, R.W. *Foundations of cognitive grammar, Vol.1, Theoretical Prerequisites*, Stanford University Press, 1987.
- [14] Geeraerts, D. *Theories of Lexical Semantics*, Oxford University Press, 2010.
- [15] Lakoff, G. & Johnson, M. *Metaphors we live by*, University of Chicago Press, 1980.
- [16] Kondo, A., Tanaka, M. & Asahara, M. Alignment table between UniDic and ‘Word list by semantic principles. *Proceedings of the 8th Conference of Japanese Association for Digital Humanities*, 125-128, 2018.
- [17] 国立国語研究所, 分類語彙表増補改訂版データベース, (バージョン1.0), 2004.
- [18] 国立国語研究所, コーパス検索アプリケーション『中納言』, (2026-1 閲覧). <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>.
- [19] 国立国語研究所, 現代日本語書き言葉均衡コーパス (バージョン2021.03, 中納言バージョン2.7.3) (2026-1 閲覧). <https://clrd.ninjal.ac.jp/bccwj/>.